

葛山城(市指定史跡)(裾野市葛山字富士畑)

葛山城（かつらやまじょう）は静岡県裾野市にある日本の城跡。

概要

駿一帯に勢威を振った葛山氏の城である。 平時の城である「葛山館」と菩提寺の仙年寺の裏山にある詰城とも土塁や堀切、曲輪など遺構がよく残っている。

Wikipedia による

築城時期は定かではないが、室町期に駿東一帯を支配した大森氏が小田原城に本拠を移した際に、一族の葛山氏が居住したと言われる。

葛山氏は国人衆として駿河守護職の今川氏の被官となっていたが、富士川以東は今川氏の直接支配は及ばず、葛山氏は半独立勢力であった。応永二十三（1416）年の上杉禅秀の乱に際しては、今川範国の軍勢に組み入れられ、永享十（1438）年の永享の乱に際しても、今川範忠の配下で足利持氏攻撃の先方として出陣している。

延徳三（1491）年、興国寺城にいた伊勢新九郎（北条早雲）が伊豆に討ち入り堀越御所を急襲、足利茶々丸を討った際も、今川氏に命じられて援軍として参加している。その後、葛山氏は早雲の次男、氏時を養子として迎えている。永正十一（1514）年には今川氏親が甲斐の内紛に介入し、葛山氏も甲斐に出陣した。大永六（1526）年に北条氏綱と武田信虎が籠坂峠で争った際も北条方に与していたと見られる。葛山氏元はのちに北条氏綱の息女を娶っている。天文五（1536）年、今川義元が武田信虎と和睦したことに怒った北条氏綱が駿東に侵出（河東一乱）した際には、北条に与していたと思われる。

永禄十一（1568）年、武田信玄が駿河に侵攻すると、葛山氏元は朝比奈・三浦・瀬名氏らとともに武田に内通した。翌永禄十二（1569）年には北条方の富士兵部少輔信忠の大宮城を包囲し、開城させている。その後の蒲原城攻撃でも先方の一翼を担ったが、恩賞に不満を持った氏元は武田氏に兄謀反を企てたのを武田に察知され、幽閉の後諏訪の地で斬られたという。氏元の死後は信玄の六男・信貞が葛山氏を嗣いだが、天正十（1582）年二月に武田氏は滅び、信貞も甲斐善光寺で自刃、葛山氏は断絶し葛山城も廃城となった。

「埋もれた古城」サイトによる

